

旅立ち そして、新たなステージへ 76回生231名卒業!!

瓊浦

第1号

令和7年2月21日発行

瓊浦高等学校

住所 長崎市伊良林
2丁目13番4号

電話 826-1261(代)

FAX 820-5245



卒業はゴールではない。新たな世界へのスタートだ。これから皆さんはそれぞれの世界で己の力で羽ばたいていくことになる。今は新生活への不安と期待が入り交った複雑な心境だろうが、皆が通ってきた道である。これまでの自分の頑張りが目に見えて評価される厳しい場でもある。自信を持って挑戦してもらいたい。誇りを持って臨んでほしい。皆さんは瓊浦高校を卒業した勇士なのだから。

けれども、皆さんは無事に今日、瓊浦高等学校を卒業する。数多くの思い出を胸に刻み。高校生活で得たもの、それは単なる記録上や資格上の話ではない。みなさんの今後の人生を生き抜く糧となるもの。そうしかたがえのないものを手にしているにちがいない。

「いよいよ」というか「やっと」というか、「もう」というか。感想は人それぞれだろうが、二月二十一日、今年度も無事に、卒業証書授与式が行われる。

「三十一名の卒業生たちは、どのような思いでこの卒業式を迎えたことだろう。三年間という期間は短いようで長い。卒業に至るまでには、それぞれドラマがあったことだろう。楽しかった思い出もあるだろう。悔しかった思い出もあるだろう。今となっては思い出すのも恥ずかしい過去だつてあるだろう。人知れず涙を流したこともあったかもしれない。

もうすぐ今日が終わる
やり残したことはないかい
親友と語り合ったかい
燃えるような恋をしたかい
一生忘れないような出来事に出会えたかい
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい

かりゆし58『オワリはじまり』



今年度の卒業式で答辞を務めることになったのは松木海音さん(情3A)。
松木さんは、前生徒会長で、昨年度の卒業式では在校生代表として送辞を務めた経験がある。松木さんは卒業式に向け、「昨年も送辞を読ませていただいたんですけど、その時とは比べようもないくらい緊張感がある。皆の代表なので、恥ずかしいという精神一杯頑張りたい」と意気込みを語ってくれた。

これまで短い時間ではあったが、これまでの高校生活を振り返り、素晴らしい文章を仕上げてくれた松木さん。卒業式本番では、練習の成果を発揮し、素晴らしい答辞を披露してくれることと確信している。



卒業生答辞は
松木海音さん!!



受賞者一覧

瓊浦学園賞

村山瑛琶(情3A)

校長賞

山崎慎太郎(普3A)

本村柚那(情3A)

佐藤敬人(機3A)

答辞

松木海音(情3A)

私学賞

川口竜津(普3D)

県教育委員会表彰

山崎慎太郎(普3A)

産業教育振興中央会賞

松木海音(情3A)

松尾真太郎(機3A)

産業教育成績優秀者

村山瑛琶(情3A)

県高体連卒業生顕彰

川原よしの(普3D)

県高文連卒業生顕彰

竹谷元奈(機3A)

県高体連表彰

高橋輝(普3D)

体育特別功労賞

高田隆誠(普3D)

体育功労賞

男子バドミントン部

特別奨励賞

王博(普3D)

3ヶ年皆勤

後藤大地 七種夢月

前田沙耶(以上普3A)

平野依織 松崎零哉

(以上普3B)

清水悠希(以上普3C)

高橋輝(以上普3D)

尾崎百菜 村山瑛琶

(以上情3A)

川口颯太 森烈士

(以上機3A)

橋口幸司(以上機3B)

たまのうら

近年、日本中で「麻雀」が大きなブームを興していることを知っているだろうか。二〇一八年に創設された麻雀プロが参加するリーグ戦「Mリーグ」が大きな原因であることは間違いない。「麻雀」とは、自分の手牌十四枚ある中から役を作っていく、その得点の高さと速さを競うゲームで、詳しいルール等は知らなくても、名前ぐらいは聞いたことがあるという人がほとんどであろう。

その麻雀の面白さに魅了され、Mリーグ創設に大きく関わったのが、サイバーエージェント社の代表取締役である藤田晋氏である。当時、日本の麻雀プロの数は約二〇〇〇人。しかし、そのほとんどが麻雀だけでは生活できない状況と言われていた。そんな麻雀業界に新風を巻き起こしたのが藤田さんだ。彼は、野球やサッカーのようにプロリーグに企業スポンサーをつけ、ネット配信で多くの対局を中継することで、より多くのファン層の拡大を目指した。そしてリーグ創設から六年、当初七チームからスタートしたリーグも、二チームが増え九チームとなり、対局を観戦する各チームのファンの数は、膨大に膨れあがっている。

しかし、その過程は順風満帆だったわけではなく、最も大きな障害は、麻雀のイメージの悪さである。麻雀というどうしても賭け事のイメージが強く、多くの企業がスポンサーに難色を示した。そこで行ったのが「ノーギャンブル宣言」である。所属する麻雀プロに厳しい罰則を定め、賭博行為を厳しく取り締まることで、古いイメージからの脱却を図ったのである。このことにより、子どもから高齢者までが、楽しく観戦、応援できる環境を作り上げたのである。

こうした意識の変化こそこれからの世の中に必要なものなのではないだろうか。現代では、物事を簡単に調べることができ、どんな問題にも即座に答えを用意できる。その結果、一度ついたイメージ、けれども、従来のイメージにとらわれていて、決して新たな発見、発明は出現しない。ビジネス用語で「パレオ・プレジレント・シンジ」というらしいが、この意識の変化こそこれからの時代を作っていく人たちに求められているものなのだろう。

今年創立一〇〇周年を迎える瓊浦高等学校。これまで築いてきた古き良き伝統を受け継ぐことは大切なことだ。何でもかんでも新しいものを取り入れるのが良いとは限らない。だが同時に、意識を変化させ新たな時代に対応することもまた求められることとなる。年齢を重ねると、この意識の変化というのが非常に難しい。これからの時代を生きていく若者にこそそういった力に期待したい。

麻雀は頭脳を競うスポーツだが、実力だけでなく勝てるわけでもない。運も大きく左右するため、素人がプロに勝つことも大いにあり得る。囲碁や将棋と異なる点はそこである。だが、藤田さんはそのことこそ人生と同様だと語る。生きていく上で実力は必要だし、そのための努力は不可欠だ。ただ、そこに運も加わるからこそ人生は面白い。麻雀はそういつたことから改めて気づかせてくれるという。

将来的には、オリンピック競技を目指していると語る藤田さん。Mリーグの熱が世界中に伝わり、オリンピックという舞台でその選手たちが輝くのを削る。そういった未来が来る日もそう遠くはないのかもしれない。

ときに厳しく、ときに優しく。

伝えたい想いがある、伝えたい言葉がある

Message from The Teacher



学年主任
正木 佳二郎

76回生の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんが瓊浦高校に入学したのが、つい先日のことの様に感じ、時の流れの速さに驚かされます。

この3年間で振り返ってみると、76回生が様々な挑戦と努力を続ける姿を見ることができ、共に学び、笑い、喜びあうことができた日々は何物にも代えがたいものになりました。遠足や体育祭といった学校行事に限らず、何気ない日常の会話の中にも皆さんの成長が感じられ本当に嬉しかったです。ありがとう。

76回生の皆さんは瓊浦高校での日々を通して、大きく成長し、多くのものを得ることができたと思います。それは自分自身が頑張ったことが一番の要因ですが、仲間や保護者の方、多くの人の助けがあったのを忘れてはいけません。どうか感謝の気持ちを忘れることなく春からの新生活を迎えてください。いつまでも、応援しています。



普通科A組担任
本馬 晴子

卒業おめでとうございます。この3年間、何かに真剣に向き合うことができましたか？部活・勉強・趣味など、一人ひとりに一生懸命頑張ったことがあると思います。得意なことを伸ばし、苦手なことにも必死に取り組む、そんな充実した高校生活も終わり、いよいよ次のステージです。これから先、困難な道を歩むとき、新しい山に挑むとき、瓊浦高校での様々な経験が皆さんの支えになってくれるでしょう。可能性にあふれた未来に向かって、元気よく進んでいってください。



普通科A組副担任
森 貴浩

ご卒業おめでとうございます。現在、世界は今までにないスピードで変化しています。急速なグローバル化、デジタル化という面もあれば、温暖化による急速な環境変化等もあります。今後予測が難しい時代に向かっていく皆さんですが、その中を逞しく生き抜いてほしいと思います。瓊浦で培った生きる力を糧に、頑張ってくれることを期待します。



普通科B組担任
合馬 数善

皆さん、卒業おめでとうございます。

この3年間という高校生活はどうだったでしょうか。「辛いことが多かった」、「良い思い出がひとつも無い」といった人もいるかもしれません。逆に、「楽しかった」、「瓊浦に来て良かった」という人もいるのかもしれません。ただ、そうした高校生活は、皆さんが今後の長い人生を生きていく上で、たかが3年という時間以上のとても大きな意味を持つものであると思います。良い思い出も悪い思い出もひっくるめて、皆さんの大きな宝物になるに違いありません。実際に高校に通っている時、卒業したばかりの現在にはあまり実感はないと思いますが、学校を離れ、時間が経ってからではじめてその重要性、希少性に気づくのが学生時代ではないでしょうか。皆さんのそうした宝物とも言える時期に、ほんの少しでも関わったことを大変嬉しく思います。今後いろいろなことがあると思いますが、何かのきっかけでふと瓊浦高校で過ごした日々の中の1コマを思い出して、物事に立ち向かう力に変えてほしいと願っています。



普通科B組副担任
荒木 康正

『万事修養』

何かを成し遂げた達成感よりも、何かに燃えている充実感がいい。その充実感を高校生活で味わえたのなら、結果が出せなかったとしても十代の貴重な時期に得られたものは大きいと思う。しかし高校生活が漫然と無為に過ごした日々であったとしても、過ぎてしまったことを思案に暮れても仕方がない。これから燃えるような充実感を味わえる事を見つければよい。人生に大切なのはいつも心を開いて耳を澄ましてみることに。

Discovery happens when you take a new pathway.

一歩踏み出せば新しい発見から大事なことに気付く。人生の学びはまだまだ続きます。皆さんのご活躍を心よりお祈りいたしております。



普通科C組担任
小森 泰洋

卒業おめでとう

君たちの成長を身近に見ることができたことを、大変嬉しく思います。私の体と声の大きさと君たちよりも目立っていなかったか心配です。君たちの心に深く彫り込まれた「瓊浦魂」は、どんな苦難にも立ち向かっていけることだと思います。よく学び、よく遊び、精一杯青春を楽しんだ3年間でした。

ご両親に感謝し、これからもさらに頑張って下さい。より一層の活躍を心から期待しております。



普通科C組副担任
中上 剛

卒業のはなむけに言葉を贈ります。

どの時代も未来は予測不可能な風景です。ですから、たとえば次の三つの眺めを心のどこかに持っておくとよいかもしれません。

①大海原へ船を漕ぎ出すときの遠くへの視点を持ちましょう。

②時に緩やかで、時に激しい大河の流れを感じながら、時代の流れに敏感でありたいものです。

③くじけない気持ちで高峰の頂を目指しましょう。踏み出す一歩の持つ力を信じましょう。

卒業おめでとう。

贈る言葉 ～最後のHR～

どんなときも見守ってくれた先生方が君たちへ贈る「最後のメッセージ」



普通科D組担任
末岡 政広

卒業される皆さんへ

ご卒業おめでとう。瓊浦高校で過ごした高校3年間はどんなものでしたか？ 良い思い出も悪い思い出も全て過去の事です。過去を振り返るよりも未来をどう生きたいかを考えて行動して欲しいと思います。皆さんの今後の活躍に期待しています。



普通科D組副担任
阿部 泰宣

青春の3年間の歩みを終え、大人としての時間が始まる。踏み出す社会は更に便利、快適になり、環境は温暖化や異常気象等、急激な変化を見せる。人は多様な価値観に正しさや自分らしさを模索し、誰もがどう生きるべきかと問い続けている。詩人ゲオルグは「たとえ明日地球が減じるとも、私は今日リンゴの木を植える」と謳う。どんな時も希望を持ち前向きに生きたい。自分のため、周りのために努力し、他への優しさを忘れない。それが人の本能であり進化の力だと信じる。母校で培った魂が、皆の前途を照らすことを祈ります。



情報ビジネス科A組担任
坂口 祐次

ご卒業おめでとうございます。

皆さんはこの高校生活で、自分の行動に責任を持つこと、今何をすべきかを自分で判断することを学んだと思います。これからも、時に失敗することや、想像と違う結果になり、困ることもあると思いますが、自分で考え行動できる力を持っている瓊浦生なら、大丈夫！

卒業後の進路は様々ですが、これからも自分の道を自分で決め、素敵な人生を歩んでいってくださいね。



情報ビジネス科A組副担任
貝田 祐子

卒業生の皆さん、「入学おめでとうございます」から始まり3年が経過しました。そして、今は「卒業おめでとうございます」で終わりを迎えます。この言葉から、高校生活は紆余曲折あっても、常に大事に守られ祝福されていた時間だったことを心に留めて欲しいと思っています。これからの人生でその事に感謝の念を馳せる時、次は皆さんが誰かを守り大事にする番です。その連鎖をつなぐ大役を担ってくれる事を願っています。



機械科A組担任
橋本 武大

「富む者はますます富み、貧しき者はますます貧しくなる」という言葉があります。私の解釈では「富む者」＝「前向きな人、自ら動く人」であり、「貧しき者」＝「不満ばかり言う人、怠ける人」です。富む者は求められた以上の結果を出すことができ、周囲からも信頼されます。しかし、貧しき者は想定以上の結果は出せませんし、周囲から必要以上に信用されることもありません。与えられる仕事や課題が必ずしも自分の望むものとは限りませんが、いつか必ず自分のやりたいことに繋がります。どんなことにも「富む者」でいれるよう頑張ってください。



機械科A組副担任
加来 大助

76回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。瓊浦高校で過ごした3年間の思い出を感慨深く振り返っているところではないでしょうか。皆さんののはつらつとした姿を見られなくなることは寂しい気持ちがいりますが、高校時代に学んだことを生かし、たくましく成長していく卒業後の姿を楽しみにしています。これからは、より高い知識や技術を身につける努力を惜まず、充実した日々を送って下さい。新しいフィールドでの皆さんの活躍を期待しています。



機械科B組担任
玉島 健太郎

皆さんが入学した2022年から成人年齢が引き下げられ、大人として高校を卒業する3期目の世代となりました。子どもは「自分のことを出来ること」を求められますが、大人は「他人のために行動出来ること」を求められます。世間からの評価の基準が大きく変わるため、戸惑うことも多々あると思いますが、頑張ってください。なお、大人になったからと言って他人に頼ってはいけな、とはならないので、困った時にはいつでも学校に来て下さい。ご卒業、おめでとうございます。



機械科B組副担任
黒川 潤也

第76回生の皆さん、御卒業おめでとうございます。高校生活はどうでしたか？とても充実した学校生活を送れたのではないのでしょうか？瓊浦高校卒業後は就職、進学と別々の道に進みます。多くの経験を積んでいく中で、必ず自分の人生を左右する大きなチャンスが巡ってきます。巡ってきたチャンスをモノにするには日頃の「準備力」が必要です。いつ来るかわからない1%の「成功」を掴む為に、日頃から常に99%の「準備力」をしっかりと養ってください。皆さんの今後のご活躍を心よりお祈りしています。

新世代台頭

目指すは全国の頂点、その先へ。



令和6年度
全九州高等学校選抜バドミントン競技大会
第53回
全国高等学校選抜バドミントン競技大会九州地区予選会
期日 令和6年12月20日(金)～23日(月)
会場 久留米アリーナ
主催 九州バドミントン連盟
(公財)久留米観光コンベンション国際交流センター



団体戦のみならずシングルス、ダブルスにおいても優勝候補に挙げられる瓊浦男子バドミントン部。狙うはインターハイの雪辱を果たし全国優勝の栄冠を勝ち取ることだ。瓊浦高校九十九年目の最後に最高の結果を出し、一〇〇周年の大きな弾みとしたい。

団体戦の優勝候補にあがる今回の全国選抜大会では、順当にいわば三回戦で第1シードの埼玉栄高校と対戦する。全国制覇を成し遂げるには、避けては通れない相手。主将の根本は、「上位のチームは、どこが勝ち上がったもおかしなくない。だからこそ、自分たちの実力が出せれば、優勝が見えてくると思う。とにかく、全試合勝てるように、まずダブルスに出る自分たちが必ず勝つて勢いをつけたい」と意気込みを語ってくれた。

二月二十二日から石川県金沢市で開催される全国高等学校選抜バドミントン大会に、本校男子バドミントン部が十年連続で出場する。昨年行われた全国私学大会では団体戦で優勝、ジュニアの大会ではシングルスで草ノ瀬(普2D)が二位、ダブルスで根本(普2D)・吉次(普2D)が優勝するなど全国の舞台で大活躍を見せ、新体制になった秋以降ますます勢いが増す男子バドミントン部。



合格体験記

長崎県立大学

経営学部 経営学科 合格

村山 瑛琶(情3A)



私は、高校三年間で、日商簿記二級、全商七種目一級を取得することができました。そのため、これらの資格を活かして進学したいと思い、検定・資格が受験条件に含まれている長崎県立大学経営学部経営学科を志望しました。

六月頃に一通り検定が終わったため、その頃から小論文を書く練習を始めました。最初は文を考えたたり書いたりするのが苦手だったため、全く書くことができませんでした。けれども、先生方のサポートもあり、入試前には制限時間以内に書くことができるようになりました。また、九月後半から面接練習も始めました。面接練習はアドリブ力が試されるため、とても苦労しました。受験勉強中に先生方や家族がサポートしてくれたおかげで勉強に集中できたため、感謝の気持ちを忘れずに頑張っていきたいです。

New generations

やるからには
自己ベストを!!



昨 年六月に行われた生徒会役員選挙にて、見事生徒会長に当選した松尾 柚季さん（普2A）。生徒会長として学校行事の運営等に尽力する傍ら、所属する女子陸上部ではエースとして活躍、学業面では学年トップの成績を修めるなど八面六臂の活躍を見せる松尾さん。そんな松尾さんのパワーの源について語ってもらった。

松 尾さんに今後の学校生活の抱負について聞く。松尾さん、「いよいよ先輩たちが卒業し、私たちが最上級生として学校を引っ張っていく立場になりました。私はその中でも生徒会長という立場なので、より責任を持つて過ごさなければいけないと感じています。三年生になると、進路のことなど忙しくなってしまうので、精一杯頑張りたい。」と語った松尾さん。特に、今年度は瓊浦高校一〇〇周年という記念の年でもあり、これまで以上に生徒会長として、最上級生としての役割が求められる。

昨 年夏には、YCE短期留学でシンガポールを訪れた松尾さん。そこで感じたのは、世界の広さだったという。「当たり前だけど、今まで自分が生きてきた世界というのは小さいもので、まだまだ視野を広げることが大事だと感じました。語学の力をもっとつけたいという気持ちも高まり、とてもよい経験になりました。」と語る松尾さん。

所 属する陸上部でも、三年生が抜け、自動的にエースとしての活躍が期待される立場となる。今年大会に出場することです。チームとしては、昨年駅伝で九州大会出場を果たしているのも、最低でも今年も九州大会出場。願わくは、県大会で優勝して都大路へいきたいです」と大きな目標を語ってくれた。勉強に部活にと大忙しの松尾さんだが、頑張れる秘訣について聞いてみると、「自分のなかにかく、何にせよやるからにはベストを尽くしたい」と語っています。部活にせよ勉強にせよ、後悔のないようにその時の全力を出すように心掛けています。」と語ってくれた。

ど んなときにも、常に一生懸命に頑張る。誰もが目標として掲げながら、実際には怠けてしまったり楽な方へ流されてしまったりして、なかなか上手いかなのが現実であろう。そんな中、自身の高い目標に向かって邁進する松尾さんの今後の活躍に大いに期待したい。

トヨタ自動車株式会社 内定
松尾 真太郎（機3A）



私がトヨタ自動車への就職を目標にしたのは、高校三年生になってからでした。当初はトヨタという会社をあまり理解できておらず、また勉強にも苦手意識があり、あまり前向きに考えていませんでした。しかし、担任の先生からの薦めもあり、内定を勝ち取るため、日々の学習へより真剣に取り組む、学業向上に努めました。その甲斐あって、授業内容も理解でき、定期考査でも好成績を維持することができました。

生徒会副会長を務めていた私は、佳境に入ると大変に思うことも多くなりましたが、役員になったことで学ぶことも多く、とても良い経験になったと今では考えています。そして本格的に受験に向けて取り組み始めましたが、途中SPIの勉強に時間をとられてしまい、面接練習が送られてしまい、焦りを感じることもありました。それでも受験本番まで出来る限りの努力をし、面接でも親戚を巻き込んで練習を重ね、何とか乗り切ることができました。

それでも結果を聞くまでの時間は長く感じ、合格と聞いたときはほっとしたことを今でも覚えています。受験を終えて、私が後輩の皆さんに伝えたいことは、早々に準備を行うことが大切だということです。将来に必要な努力をコツコツ重ねることこそが、合格への近道なのだと思います。



修学旅行

群馬・東京 4泊5日の旅



高校生活最大のイベントのひとつである修学旅行。旅を終えた生徒たちは、いよいよ四月から最上級生として瓊浦高校を引っ張っていく立場となる。それぞれの進路に向けた取り組みが忙しくなるのはもちろんのこと、来年度は瓊浦学園一〇〇周年という、学校全体でかつてない大きな節目を迎えることとなる。来年度は多くのイベントが控えており、その中心を担うのは現在の二年生である。今回の修学旅行で楽しかった思い出ができたのはもちろんかけがえないことだが、それだけではなく仲間と育んだ絆や集団行動の規律なども含め、多くのことを得たはずである。ぜひ、これからの高校生活、そしてこれからの長い人生に活かしていってもらいたい。

旅行から戻った生徒たちから話を聞くと、「とても楽しかった」、「また行きたい」、「長崎と違いすぎる」、「あつという間違った」といったどれもポジティブな感想ばかりが寄せられ、修学旅行を大いに楽しんだ様子が伝わってきた。

道中、慣れない寒さや旅行の疲れから体調を崩す生徒も見られたものの、参加した生徒たちは初めてのスキーやスノーボードに楽しそうに取り組む姿が見られ、修学旅行を大いに満喫しているようだった。三日目に訪れたデイズニールランドでは、強風のため花火やパレードが中止になるという残念なアクシデントに見舞われたが、生徒達たちは短い時間ながらアトラクションなどを中心に楽しんでいるようであった。

二月十日から十四日まで、第二年度の修学旅行が行われた。今年二の行き先は群馬・東京。初日の飛行機が機材トラブルのため三十分遅れる等のアクシデントはあったものの、おおむね予定通りに四泊五日の行程を終えた。

思い出と共に 修学旅行、無事に帰還



令和7年度 1学期行事予定

4月	5月	6月	7月
8日 始業式・新任式	2日 振替休日(5/17)	4日 振替休日(6/1)	1日 求人開始
9日 入学式・PTA入会式	16日 中間考査(〜17日)	23日 創立記念集会	9日 体育祭予行
9日 部活動紹介	17日 PTA総会	30日 県高総体開会式	10日 一〇〇周年記念体育祭
進路模試③	19日 高総体特別時間割(〜30日)	31日 県高総体(〜3日)	17日 校内競技大会
オリエンテーション①(〜10日)			18日 終業式
10日 進路適性検査②			22日 学習補充指導(〜23日)
写真撮影①			
11日 歓迎遠足			
21日 マナーアップ週間(〜25日)			

瓊浦高校 元理事長 栗山 幸生先生を偲んで

11月19日、本校元理事長である栗山幸生先生がご逝去なされました。享年86歳でした。栗山先生は、昭和38年から本校に勤務し、平成8年から校長、平成13年からは理事長として瓊浦高校の発展に長くご尽力なされました。校外においても長崎県私学協会の会長や長崎県高野連の会計理事等を歴任され、瓊浦高校のみならず長崎県の私学教育に多大な貢献をなされました。



栗山先生のご冥福をお祈りいたします。